

第32回 ヒューストン補習校 vs ダラス校 親善ソフトボール大会

7ページ続き



小学部6年生茶道教室



2023年9月9日、「日本の伝統文化に親しみ、理解を深める」という目的で、ショーイングジャパンによる茶道教室が開催されました。会場は、例年の借用校から場所を変え、今年度は三水会センターです。新型コロナウイルス感染対策で3・4年生時の工場見学は体験できなかったため、初めてバス移動での課外活動を体験する子どもたちは大喜びでした。

会場に到着してドアを開けると、そこは茶室に見立てて一面に畳が敷かれ、障子が掛けられていました。床の間には「一期一会」の掛け軸、その前には季節にちなんだ花が飾られていました。会場の外とは別世界の空間に、子どもたちが一気に引き込まれていくのが、一人ひとりの表情から見て取れました。

はじめに茶の心を表す言葉「和敬清寂」、そして掛け軸にも書かれている「一期一会」の心得を教えてくださいました。茶道の歴史や作法について、丁寧に説明いただき、多くの子どもたちはノートに書き留めていました。

次に茶席のデモンストレーションが始まりました。岡林学校長と学年を代表して6名の児童が茶道体験をしました。少し緊張気味の代表児童でしたが、作法を一つ一つ教えてもらいながら、お菓子とお茶をいただきまし

た。見学している子どもたちは、目の前で点てられるお茶を真剣な眼差しで見つめていました。デモンストレーション後は全員でお菓子とお茶をいただきます。背筋を伸ばした子どもたちは、お茶碗に見立てたカップを回し、吸い切りに挑戦しました。「むずかしい！」と言いながらも、隣の友達と楽しそうにお茶をいただく姿が印象的でした。最後の質疑応答では、ショーイングジャパンの皆さまが、子どもたちの質問に分かりやすくお答えくださいました。

茶道教室を終え、子どもたちから「日本で飲んだ時は一口しか飲めない苦さだったのに、今回はお菓子で苦さがやわらいで美味しかった」「お茶碗を回すのは謙虚な心という意味であると知った」との声や、茶道体験した児童からは「設置された小さな障子口をくぐって顔をあげたら、別の世界に入ったようで、そこに本当に茶室があるような気持ちになった」との感想がありました。

茶道教室を通して、茶道の歴史や礼儀作法だけでなく、相手への心遣いや思いやりなど「和のおもてなしの心」を学ぶことができました。ご尽力いただきました木下様をはじめショーイングジャパンの皆様へ厚くお礼申し上げます。

(ヒューストン日本語補習校6年A組担任 伊藤美央)

